

活動報告書

報告者氏名: 笠井 真由美

所属: 長野県伊那養護学校

記録日: 24年12月12日

【対象児(群)の情報】

- ・学年 小学部4年
- ・障害名 知的障害 自閉症
- ・障害と困難の内容
表出言語が少なく、欲求や要求を上手に伝えることが難しい。
活動の際、自分から活動に取り組むことが難しい。

【活動目的】

- ・当初のねらい 自分でできた経験を重ねることにより、コミュニケーションの幅を広げる
- ・実施期間 2013年5月～2013年12月
- ・実施者 笠井 真由美
- ・実施者と対象児の関係
学級担任

【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象児(群)の事前の状況

対象のS児は特別支援学校の4学年に在籍し、さまざまな特徴のある児童と共に学習している。家ではよく話している様子だが、学校だと吃音傾向があり、話し出すまでに少し時間を必要としていた。書字の際は、ひらがなの形がとらえにくく、小さな字になると丸を書くことが多かった。読みは概ね理解することが出来た。

・活動の具体的内容

「もじおくん」「YumYum パズル」「かぞえる～」「モジルート」のアプリと、標準のメールを利用した。読み書きを「もじおくん」、形の識別を「YumYum パズル」、数えること書くことを「かぞえる～」「モジルート」を使用した。また、日記をメールで母親に送った。

・対象児(群)の事後の変化

「もじおくん」へ話かける様子が見られた。時間があると紙に、大きな字で文字を書くことが多くなった。母親とメールのやりとりをすることで、自身の文章表現をすることへの意欲がみられるようになった。また、友だちとの関わりの際の言葉のやりとりにかかる時間も短縮された。自分から関わりを持つことが増えた。



「もじおくん」

なぞり書き、マス書き。自分の声の録音・及び再生、書けた字を褒めてくれたり、「いちごのい」のような歌をうたったりする。時々3択クイズを出す。書いた文字は保存される。また、消すこともでき、何回も練習することができる。各ひらがなに関する歌も、何回も聞くことができる。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

学校で話す言葉が増えてきた。また、詰音の詰まりの部分の音が短くなった。書字に関しても「もじおくん」を使い練習することにより字の形をとらえることができ、鉛筆で書いた際にも読むことの出来る字が増えてきた。友だちがiPadをしていると、何をしているのか覗き、一緒に鑑賞したり、画面を触ったりする姿が見られてきた。

また、友だちとの関わり方にも幅が見られ、最近ではYouTubeで友だ



さきより かあちゃんへ
2014年1月20日 10:21

ますくしたよ。さき
iPadから送信

ちが好きな歌手を検索して、一緒に踊るなどの活動がみられてきた。ひらがなボードが使いやすい様子で、検索などでは、ひらがなボードのみを使用している。

メールで母親とやりとりをすることにより、ひらがなボードへの記入もスムーズに行えるようになった。

・エビデンス(具体的数値など)

「もじおくん」を使う事により、以前より、周りの先生方からも、言葉を発する機会が増えてきたと言われた。

5月

字で書くことに困難さはあまりなかったのですが、字で書くことも併せて練習していた。なぞり書きにしているとところのみ記入していた。

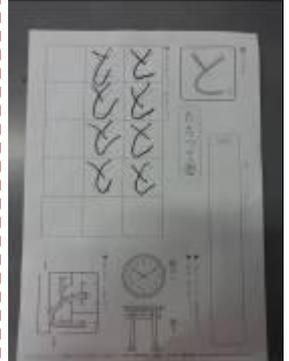
詰まる音が長く、「おっす」の「お」の字を発音すつまでに20秒くらいかかった。



9月

形が取れるようになってきた。周りの先生からの賞賛の言葉もあり、何枚も字をなぞっていた。

詰まる音が取れてきて10秒くらいになってきた。また、「もじおくん」に話かけられると、「うん!」や「たのしいね!」などの言葉を発するようになってきた。



12月

形がとれるようになってくると、なぞり書き以外の枠にも字を書くようになった。

詰まる音は大分取れ、周りの職員からもスムーズな発語をだと言われることが多くなった。「もじおくん」にも、話掛けられる前に「おっす」と言い、積極的になってきた。



スペースをみつけると、ペンを取り様々な場所へ書くようになってきた。また、友だちの名前も書くようになって、書きアピールする姿もあった。

自分から友だちに挨拶することが多くなった。「もじおくん」を紹介して共に楽しみ見せ合い、褒める様子もみられた。



「YouTube」にて検索ができるようになったことで、友だちとの関わりが増えた。

「YouTube」検索時の様子

1回目	2回目	3回目
<ul style="list-style-type: none"> ・文字を打ち、自分で楽しむ。 ・検索できたことを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を打ち、検索できたことを教師に見せにくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を打ち、検索できたことを教師にみせにくる。 ・友だちを引っ張ってきて、一緒に動画を見る。
4回目	5回目	6回目
<ul style="list-style-type: none"> ・友だちを引っ張ってきて、一緒に動画を見る。 ・友だちの好きな歌手を検索する。 ・友だちが踊る姿を見て、自分も踊った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちを引っ張ってきて、一緒に動画を見る。 ・友だちの好きな歌手を検索する。 ・友だちが踊る姿を見て、自分も声を出しながら踊った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちを引っ張ってきて、一緒に動画を見る。 ・友だちの好きな歌手を検索する。 ・友だちが踊る姿を見て、自分も声を出しながら踊った。 ・支援者さんなどへも、動画を調べて見せて踊っていた。

上記のように、一回目から検索出来きた。また、友だちへ見せることで新たな関わりが生まれた。

・その他エピソード(画像などを含めて)

クラス替えをして新しいメンバーの中、慣れるまでにとても時間がかかった。はじめは、教師の後ろをついて回って離れない、という毎日を送っていた。iPadが届いても、好きなアプリケーションが見つかるまで時間がかかり(好きな声、好きな絵に特徴があるため)、ようやく見つかったのが「もじおくん」だった。時には話かけながらiPadに親しんでいった。「もじおくん」に「とても上手に言えてたね」などと褒めながら進めていくと、段々と発語の際に見られた詰音も解消されてきた。また、調べることができるようになると、S児の好きな折り紙についても、自分で調べてレパートリーを増やしている姿もあった。また、帰りの会などで歌う



曲についても自分で調べ検索する時もあった。書くことについては、昨年度から自分の名前を書くことができる様子はあったようだが、今年は書く量が増え、運指もスムーズになった。また、お友達の名前も書けるようになってきている。

メールにて日記を書くことになった今回の取り組みだが、はじめは「ごきげん日記」を使用して、感情を表すキャラクタースタンプを押すことで日記としていた。しかし、S児は書く方が好きな様子でしきりに、ひらがなのボードを出そうとしていた。なので、メールを利用することにした。また、「ぼくらの交換日記」を利用してお家の方とやりとりを行いたいと思っていたのだが、事情があり難しかったので断念した。パソコンでのやりとりを多く行っている家庭であったので、やりとりも成立した。やりとりをすることで、その日帰ってからの話題になることがあり、学校にいくと「昨日、かあちゃんとメールしたことをはなした」と嬉しそうな様子があった。